

之が *Tuyuzuzuz* と讀まれざる可らざるを確證するに至れり、^⑩而して此の *Tuyuzuzuz* なるものは、突厥碑の讀解せらるゝに至るや、いふ迄もなく其の *Toquz Oyuz* に外ならざること證明せられたるものなれば、突厥碑文に見ゆる此の名稱は、碑文の記されたる唐の開元時代以後に於ても、引き続き北方に行はれ少くとも回教徒學者の間に知られたるものなりしなり、然も彼等が此の名によりて指す所は、僅少の場合の外、實に *Reinaud* 氏の考へたるが如く、回鶻殊に西遷以後に於る回鶻に相當すること疑無き所なりとす、余輩は先きに突厥碑文に見えたる *Toquz Oyuz* なるものは、回鶻に當るものには非ずして、回鶻をその一姓として含める所謂鐵勒九姓に外ならざること論證せり、然るに茲にまた *Tokuz Oyuz* > *Tuyuzuzuz* が回鶻に相當するものなることを認めざる可らずとすれば、先に論證したる所と互に相容れざるが如し、然れども此の如きは少しく考慮を費せば、決して矛盾を有するものに非るを知り得べく、反りて之を基として突厥碑文の *Toquz Oyuz* を回鶻なりとするの妄斷なるを指摘し得べし。

Uyur 及び *Toquz Oyuz* なる名稱が初めて回教徒著者によりて傳へらるゝが何時なるに拘はらず、此等の名は突厥及び支那の史料に於ては、彼等の記せるよりも遙かに以前の時代より相並びて記さるゝ所にして、此等の兩者が互に區別せらるべき名稱なるは論を俟たず、然るに漢史によれば *Uyur* 即ち回鶻は天寶三年より九姓團體を統合し、回鶻の首領は九姓の可汗となるに至りしが、然も此の政治的事情によりて、九姓團體中に於て回鶻姓の民が俄かに其の數を増し、他姓のものが減すべきにも非れば、彼等の勢力は從來の如く鐵勒九姓の民を以て固めたりしものに外ならず、^⑬茲に於てか九姓の統率者が何姓なりしに拘はらず、北方にては依然として其の團體を *Toquz Oyuz* と稱したるものなるべく、従つて天寶三年以後に於ては、北方にて *Toquz Oyuz* と稱するものと、支那に